



# 朝日

大田区立松仙小学校  
令和4年 7月 5日(火)  
裏研究推進だより 第4号  
研究推進担当 田邊光恵

## 5年生話題提供授業 協議会記録

授業者 伏江 祥吾 教諭

記録・文責：橋本・大武

### 成果

#### ◎児童の様子

- ・作戦カードが土台となり、チームで（攻撃・守備について）伝え合う姿が見られた。
- ・ルール工夫が実態に合っていて（3回以内で返すなど）、楽しんで運動する姿が見られた。
- ・振り返りの時間が十分にあり、カードに一生懸命記入し、次時に繋げる姿が見られた。

#### ◎教師の支援

- ・音楽に合わせた、導入（主運動につながる動き）・振り返りが効果的であった。
- ・プレー中の声かけ、称賛が多く、子ども達同士の声かけが生まれた。
- ・作戦カードの例示が子ども達の「できた。」につながった。

### 課題&疑問

#### ◎作戦カード

- ・例（イラスト）があることで良い反面、例に囚われてしまい、動けない子がいた。
- ・作戦の良さを理解したり、作戦につながる練習をしたりすることが難しかった。
- ・児童の実態に即した作戦を考える必要があった。
- ・作戦が上手くいったのかをチームで振り返りをするとよかった。

#### ◎技能面

- ・児童にとっては、バレーボールの動き方が身近でないため、自分の守備範囲であってもボールを拾おうとしなかったり、トス・レシーブが技能的に難しかったりするため、基本的な動きが分かれば良かった。サーブ、アタック、キャッチはできる児童が多い。
- ・キャッチしたボールをパスするときに、どこに、どんなボールを上げると得点が入るのかなど、より具体的なプレーをイメージした練習、試合ができると良い。

#### ◎その他

- ・ICTの活用。実際の試合の様子を撮影し、教室で観て振り返ることもできた。
- ・ボールの保持時間や、何回で返すかなど児童と話し合っただけでルールを決めたばかりだったため、浸透していない部分もあった。

#### ☆「勉強になった！」ポイント☆

〈ボール運動～ネット型～〉

ネットで区切られたコートの中で攻防を組み立て、得点を競い合うことに楽しさがあるのが、ネット型の特性である。その楽しさを「どう楽しませるか」が教師の授業づくりのポイントである。今回はボール操作を緩和し、児童の実態に合わせた工夫があった。子ども達とルールを調整したり、どうやって点を取るかと作戦を立てたりすることで、楽しんで学習ができていた。ただ「楽しむ」ではなく、運動の特性を「楽しむ」ために、何をすればいいのか、と体育だけでなく、どの授業にも共通する授業の作り方が勉強になった。（橋本）

**指導・講評**  
**大田区立新宿小学校 指導教諭 崎村 和秀 先生**

**☆子ども達が必然性をもって取り組むために**

児童の目標や目的を達成するために、互いを見合うことが大切である。運動の中で、ただ見てもらうのではなく、見るポイントを示してできるためのコツを伝えることで、見合えるようになっていく。そのためには、個人・チームの動きで大切なところを教師が伝えたり、気づかせたりすることで、児童の中に見るポイントが分かるようになっていく。運動によって大事な動きを意識した指導をしていくことで、見合うことの必然性が生まれ、児童同士で伝え合えるようになる。

**☆学習カードの活用**

授業をする以上、評価はしなければならない。授業中の動きだけでなく、思考していることを見取るためには、書いて残すことも必要である。しかし、体育では「書く量 < 運動量」が求められるため、動きの中で気づいたり、考えたりすることを、次の運動に生かすことが大切である。そのために、学習カードは次時に向けて試行錯誤できるものが良い。「今日はこれができた。」「次はこうしたい。」などと、児童自身が分かりやすく振り返り、分析ができる学習カードを作成し、活用していくことがより良い学びに繋がっていく。

**キラリと光る付箋** 文責：菊地

<ルールについて>

- ・ゲームに参加しない人を設定するのは客観的に見ることができてよかった。ただ、ボールを目で追うだけになりがち？アドバイスにまでつながったかは分からない。(安藤先生)
- ・4人制にしたおかげで、グループとしての動きや自分(友達)に足りない動きを見ることができた。黄チームは、Nさんが、「〇〇はできている！△△はもう少し！」などと言っていた。(内山先生)

<作戦について>

- ・作戦カードの図が、作戦を考える手助けになっていた。(高田先生)
- ・作戦を生かしてゲームだったが、桃チームはゲーム①で作戦を選んでいなかった。(田邊先生)
- ・作戦が何をもって◎だったのか、△だったのか、伝え合えるともっとよい。水色チームは、一人の「～だったね。」などの言葉で、あまり吟味されていない結果になっていた。(村松先生)
- ・作戦のこうげきでAを選ぶチームがほとんどだったので、B、Cの効果を理解させるか、もっと違う提示の仕方があれば攻撃の見本となったかもしれない。(矢野先生)

<学習の活動について>

- ・練習時間には、試合の具体的な場面を想定して練習ができていた。(菅先生)
- ・作戦タイムで、課題となったところを重点的に練習していた。→2試合目に生かせていた。(塚原先生)

伏江先生の端的で明確な指示のもと、児童が生き生きと試合に臨んでいる姿が印象的でした。また、試合や作戦タイムの時間に見られる具体的な児童の姿から、本時の課題設定や手立ての関連を見つけ出し、分析されている先生方がたくさんいらっしゃいました。机上の空論ではなく、児童の姿を根拠に、手立ての有効性を探れる有意義な協議会であったと改めて感じました！(菊地)